
平成30年度第2回学校評議員会

住 所 盛岡市羽場 18-11-1
学 校 岩手県立盛岡工業高等学校
校 長 阿 部 徹
電 話 019-638-3141

1 会議の名称

平成30年度第2回学校評議員会

2 会議の目的

学校運営等について地域住民代表及び地域産業代表等から幅広く意見を聞き、相互の意思疎通や協力関係を高め、地域社会に開かれた特色ある学校づくりをより一層推進する。

3 会議の日時

平成31年2月18日（月）15:30～16:30

4 会議の場所

盛岡工業高等学校 校長室

5 会議の出席者

- (1) 評議員 川 村 博 昭 本校同窓会副会長
菊 池 俊 宏 盛岡市立飯岡中学校 校長（欠席）
千 葉 則 茂 岩手県立産業技術短期大学校 校長
林 義 明 盛岡セイコー工業株式会社 常務取締役
吉 田 純 子 元本校PTA副会長
- (2) 学校側 阿 部 徹 校長
西 崇 副校長
佐々木 直 美 副校長
深 田 耕 治 定時制副校長
阿 部 隆 広 事務長

6 会議の次第

- (1) 開 会
(2) 校長挨拶
(3) 協議
ア 平成30年度活動状況報告について（校長、副校長）
イ 平成30年度の学校評価（生徒、保護者、教職員）について（副校長）
ウ 本校の課題に係る意見交換
(4) その他
(5) 校長謝辞
(6) 閉 会

7 会議の概要

次 第 (3) 学校概況説明

平成 30 年度活動状況全般について、阿部校長より概略説明を行った。(5 分)
その後、西副校長、深田副校長より資料に基づき 全日制及び定時制の説明を行った。(各 5 分)

次 第 (4) 質疑応答

- 評議員 定時制の募集停止の延期については、文部科学大臣表彰が関係しているのか。
学校側 募集停止の延期決定は、平成 30 年 8 月 1 日である。文部科学大臣表彰は平成 31 年 1 月 18 日であるので関係していないと考える。近年の入学者数の増加傾向が原因であると思われる。
- 評議員 部活指導について、いきすぎた出席指導があるというアンケートがあるがどのように対応していくのか。
学校側 文部科学省より、部活動において、必ず休養日を入れる指導があることや、働き方改革による教職員の超過勤務時間減少への努力もふまえ、適切に対応していきたい。
- 評議員 スマートフォン等を学校で預かっていることを伺ったが、生徒は素直に従っているのか。
学校側 学校の授業中にスマートフォン等を使用する事例が見られたことから、本年度より授業中は職員室で預かっている。生徒の不満の声もあるが、保護者からは感謝の声も上がっていることから、状況を鑑みて継続対応したいと考えていきたい。
- 評議員 教員のアンケート回収率が前年度と比較して減っているが、その原因は何か。
学校側 アンケートの回収については、アンケートを次年度の学校運営に生かしていく観点から、全教員に意義を確実に伝え、理解してもらい回収率を上げて参りたい。

次 第 (5) 提言等

- 評議員 2018 盛工生の活躍を見ると、軽音学部が県高校総合文化祭の軽音楽部発表会で最優秀賞を取ったことは立派である。文化部の活躍にも期待したい。
- 評議員 盛工の定時制の存続を望む地域からのあつい声が上がっている。工業系の定時制という特殊性をふまえ、存続をお願いしたい。
- 評議員 普通高校にうまく馴染めなくて、盛工に来て開眼する生徒がいる。今からでも努力することの大切さを教えて、生徒を伸ばしていただきたい。
- 評議員 先生と生徒のコミュニケーションを密にして、進路指導の更なる充実と、資格取得の重要性をふまえた指導をお願いしたい。
- 評議員 一人ひとりの個性を生かした進路指導をお願いしたい。生徒との面接をとおして、個性が出せない（みんなが標準化されている）生徒が多いと感じている。

8 会議のまとめ

評議員の皆様からいただいた御意見や御助言は、本校の教育活動を肯定的に捉えたうえで、物心両面からの支援を継続し、更なる発展・飛躍を期待するという前向きなものであった。
教職員と生徒及び保護者との更なる信頼関係の構築や、工業高校の今後の在り方については、引き続き検討をしていかなければならないと感じた。